

第147回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	売上	ソフトウェア	有価証券
仮払法人税等	仮払消費税	貯蔵品	子会社株式
修繕費	減価償却累計額	リース資産	前払費用
租税公課	未払法人税等	未収入金	受取手形
支払手数料	建設仮勘定	建物	機械装置
ソフトウェア仮勘定	保険料	未払金	普通預金
クレジット売掛金	売掛金	現金	仕入
仕入割戻	固定資産除却損	リース債務	仮受消費税
減価償却費	支払利息	買掛金	売上割戻

1. 機械の増設工事（工事代金 ¥ 3,000,000 は3回分割で銀行振込により支払済み）が完成し、各固定資産勘定等の適切な勘定に振り替え処理を行った。工事の明細は、機械装置 ¥ 2,500,000、修繕費 ¥ 500,000 であった。さらに、増設工事にともない使用を中止した旧機械の一部（取得価額：¥ 1,000,000、減価償却累計額：¥ 800,000、記帳方法：直接法）の除却処理をあわせて行った。なお、旧機械の処分価値は ¥ 50,000 と見積もられた。
2. 海外の取引先から、商品 10,000 ドルの代金を2か月後に支払う条件で輸入した。輸入時の為替相場は1ドル ¥ 100 であったが、50,000 ドルを2か月後に1ドル ¥ 105 で購入する為替予約が輸入の前に結ばれていたため、この為替予約により振当処理を行うこととした。
3. 1週間前に商品 ¥ 100,000 をクレジット払いの条件で販売し、信販会社へのクレジット手数料（商品代金の4%）も販売時に計上していたが、この商品が顧客から返品されてきたためこの取引の取消処理を行った。なお、消費税の税率は8%とし、税込方式で処理するが、クレジット手数料には消費税は課税されない。
4. リース会社と機械のリース契約（リース料：月額 ¥ 100,000、リース資産の見積現金購入価額：¥ 5,400,000、リース期間：5年）を締結し、機械が納品され、同時に第1回のリース料 ¥ 100,000 を小切手を振り出して支払った。このリース取引は、ファイナンス・リース取引であったため、利子抜き法により処理することとした。
5. 外部に開発を依頼していた社内利用目的のソフトウェア（開発費用 ¥ 1,500,000 は6回分割で銀行振込により支払済み）が完成し使用を開始したため、ソフトウェア勘定に振り替えた。なお、開発費用 ¥ 1,500,000 の中には、使用開始後にかかるシステム関係の保守費用 ¥ 200,000 が含まれていることが判明したため、適切に処理することとした。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	機 械 装 置	2,500,000	建 設 仮 勘 定	3,000,000
	修 繕 費	500,000		
	貯 蔵 品	50,000	機 械 装 置	200,000
	固 定 資 産 除 却 損	150,000		
2	仕 入	1,050,000	買 掛 金	1,050,000
3	売 上	108,000	ク レ ジ ッ ト 売 掛 金	104,000
			支 払 手 数 料	4,000
4	リ ー ス 資 産	5,400,000	リ ー ス 債 務	5,310,000
	支 払 利 息	10,000	当 座 預 金	100,000
別解	リ ー ス 資 産	5,400,000	リ ー ス 債 務	5,400,000
	リ ー ス 債 務	90,000	当 座 預 金	100,000
	支 払 利 息	10,000		
5	ソ フ ト ウ ェ ア	1,300,000	ソ フ ト ウ ェ ア 仮 勘 定	1,500,000
	前 払 費 用	200,000		

・解説

1. 固定資産の取得・修繕・除却に関する問題です。

解答仕訳の勘定科目の数は多いものの、「取得・修繕に関する仕訳」と「除却に関する仕訳」に分けて考えれば難しい問題ではありません。

■取得・修繕に関する仕訳

取得・修繕の仕訳に関しては、第 141 回の問 2 で出題された仕訳問題と同じ形です。仕訳対策をきちんとやっていた方はラッキーでした。

まず、問題文の「**工事代金 ¥ 3,000,000 は 3 回分割で銀行振込により支払済み**」から、以前に以下のような仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・工事代金の前払時の仕訳（※3 回分）

（借）建設仮勘定 3,000,000 / （貸）普通預金など 3,000,000

なお、建設仮勘定は有形固定資産の（完成・引き渡し前までの）前払い分を一時的に処理する勘定です。建物だけでなく備品に関する前払いを処理する場合にも使うことができます。

上記の仕訳を踏まえたうえで、問題文に「**工事の明細は、機械装置 ¥ 2,500,000、修繕費 ¥ 500,000 であった**」とあるので、建設仮勘定 3,000,000 円のうちの 2,500,000 円を**機械装置**に、残りの 500,000 円を**修繕費**に振り替えます。

★解答①

(借) 機械装置 2,500,000 / (貸) 建設仮勘定 3,000,000  
(借) 修繕費 500,000

■除却に関する仕訳

除却の仕訳に関しては、問題資料で与えられている取得価額（1,000,000円）・減価償却累計額（800,000円）の差額（200,000円）を**固定資産除却損**で処理するだけです。

ただ、問題文に「旧機械の処分価値は ¥ 50,000 と見積もられた」とあるので、差額のうちの50,000円は**貯蔵品**で処理しましょう。

★解答②

(借) 貯蔵品 50,000 / (貸) 機械装置 200,000  
(借) 固定資産除却損 150,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。なお、解答仕訳の借方の機械装置（新機械）と貸方の機械装置（旧機械）は別物なので、相殺せずに両建てで解答しましょう。

固定資産の取得に関する問題は、第101回の問3や第118回の問5、第120回の問5、第125回の問4、第128回の問1、第131回の問3、第139回の問1、第139回の問5、第141回の問2、第145回の問1、第150回の問2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

固定資産の修繕に関する問題は、第100回の問1や第102回の問4、第110回の問1、第111回の問5、第115回の問3、第119回の問2、第123回の問5、第124回の問1、第132回の問1、第137回の問3、第139回の問1、第139回の問4、第141回の問2、第149回の問3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

固定資産の除却に関する問題は、第103回の問1や第110回の問5、第111回の問3、第121回の問5、第135回の問3、第148回の問2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 外貨建取引に関する問題です。

本問は取引発生時までには為替予約を行っているため、外貨建ての仕入債務（買掛金）は**為替予約時の先物為替相場（@105円）**で換算します。

**10,000ドル × @105円 = 1,050,000円**

☆参考・為替予約時の仕訳

仕訳なし

★解答・取引発生時の仕訳（←本問で問われている仕訳）

(借) 仕入 1,050,000 / (貸) 買掛金 1,050,000

☆参考・決算時の仕訳

仕訳なし

☆参考・決済時の仕訳

(借) 買掛金 1,050,000 / (貸) 現金など 1,050,000

■取引発生後に為替予約を行った場合は？

仕入時の為替相場 (@100 円) による買掛金の円換算額と、為替予約時の先物為替相場 (@105 円) による買掛金の円換算額との差額を**為替差損益**で処理します。参考までに以下の仕訳をご確認ください。

$$\text{為替差損益} = (\text{@105 円} - \text{@100 円}) \times 10,000 \text{ ドル} = \mathbf{50,000 \text{ 円}}$$

☆参考・取引発生時の仕訳

(借) 仕入 1,000,000 / (貸) 買掛金 1,000,000

☆参考・為替予約時の仕訳

(借) 為替差損益 50,000 / (貸) 買掛金 50,000

☆参考・決算時の仕訳

仕訳なし

☆参考・決済時の仕訳

(借) 買掛金 1,050,000 / (貸) 現金など 1,050,000

外貨建取引に関する問題は、第 148 回の問 5 でも出題されているのであわせてご確認ください。

3. クレジット売掛金・消費税に関する問題です。

本問は、以前にクレジット販売したものが返品されたさいの仕訳が問われているので、まず先にクレジット販売時の仕訳を考えましょう。

まず、「商品 ¥ 100,000 をクレジット払いの条件で販売」「消費税の税率は 8%」から、貸方の売上の金額が 108,000 円 (=100,000 円×108%) になると判断します。

次に、「信販会社へのクレジット手数料 (商品代金の 4%) も販売時に計上していた」「クレジット手数料には消費税は課税されない」から、借方の支払手数料の金額が 4,000 円 (=100,000 円×4%) になると判断します。

最後に、貸借差額 104,000 円 (=108,000 円-4,000 円) をクレジット売掛金で処理します。

☆参考・クレジット販売時の仕訳

(借) クレジット売掛金 104,000 / (貸) 売上 108,000

(借) 支払手数料 4,000

次に、取り消し処理の仕訳を考えますが、これは単に**販売時の逆仕訳**をするだけです。上記の仕訳の借方と貸方をひっくり返して解答しましょう。

★解答・返品時の仕訳

(借) 売上 108,000 / (貸) クレジット売掛金 104,000

(貸) 支払手数料 4,000

■消費税の処理が税抜方式だったら？

消費税の処理方法が税抜方式の場合は、消費税分 8,000 円 (=100,000 円×8%) を**仮受消費税**で処理します。

☆参考・クレジット販売時の仕訳

(借) クレジット売掛金 104,000 / (貸) 売 上 100,000

(借) 支払手数料 4,000 (貸) 仮受消費税 8,000

☆参考・返品時の仕訳

(借) 売 上 100,000 / (貸) クレジット売掛金 104,000

(借) 仮受消費税 8,000 (貸) 支払手数料 4,000

クレジット売掛金に関する問題は、第144回の間3や第146回の間1、第150回の間4でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

消費税に関する問題は、第104回の間3や第110回の間2、第117回の間3、第124回の間3、第132回の間3、第138回の間5、第141回の間4、第142回の間1、第143回の間5、第144回の間3、第146回の間5、第150回の間4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. リース取引に関する問題です。

本問はまず、問題文の「利子抜き法により処理する」から、リース資産に計上するのは**利息相当額を含まない見積現金購入価額(5,400,000円)**であることが分かります。

- ・利子込み法の計上額：リース料総額（見積現金購入価額＋利息相当額）
- ・利子抜き法の計上額：見積現金購入価額

★解答①・リース取引開始時の仕訳

(借) リース資産 5,400,000 / (貸) リース債務 5,400,000

次に、第1回目のリース料の支払いの仕訳を考えます。

本問では利子抜き法の処理が問われているため、**1か月分の支払利息・リース債務**を計算して借方に計上しましょう。

- ・リース料総額：@100,000円×60か月＝6,000,000円
- ・見積現金購入価額：5,400,000円
- ・利息相当額：6,000,000円－5,400,000円＝600,000円
- ・1か月あたりの利息：600,000円÷60か月＝@10,000円
  
- ・リース債務計上額：5,400,000円
- ・1か月あたりのリース債務：5,400,000円÷60か月＝@90,000円

★解答②・リース料支払時の仕訳

(借) 支払利息 10,000 / (貸) 当座預金 100,000

(借) リース債務 90,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

なお、各社が公表した模範解答は「リース債務を貸方にのみ計上する仕訳」と「リース債務を借方と貸方に計上する仕訳」の2つに割れており、しかもそれぞれが「別解なし」となっています。

問題文に「同時に」という文言があるため、作問者が「リース債務を貸方にのみ計上する仕訳」だけを正解としている可能性もありますが、この問題で「リース債務を借方と貸方に計上する仕訳」を不正解にするのは厳しすぎると思います。よって、簿記検定ナビでは両方の仕訳を模範解答としてご紹介しています。

■処理方法が利子込み法だったら仕訳はどうなる？

リース取引開始時にはリース料総額（6,000,000円）をリース資産に計上し、リース料支払時には支払った分（100,000円）だけリース債務を減額します。なお、**利息分はリース債務に含まれている**ためリース料支払時には支払利息を計上しません。利子抜き法との違いをきちんと押さえておきましょう。

☆参考・リース取引開始時の仕訳

（借）リース資産 6,000,000 / （貸）リース債務 6,000,000

☆参考・リース料支払時の仕訳

（借）リース債務 100,000 / （貸）当座預金 100,000

リース取引に関する問題は、第149回の問5でも出題されているのであわせてご確認ください。

5. ソフトウェアに関する問題です。

まず、問題文の「**開発費用 ¥ 1,500,000 は6回分割で銀行振込により支払済み**」から、以前に以下のような仕訳を切っていたことが分かります。なお、ソフトウェア仮勘定はソフトウェアの（完成・引き渡し前までの）前払い分を一時的に処理する勘定です。有形固定資産の前払分を一時的に処理するさいに使う**建設仮勘定**と使い方は同じです。

☆参考・開発費用の前払時の仕訳（※6回分）

（借）ソフトウェア仮勘定 1,500,000 / （貸）普通預金など 1,500,000

上記の仕訳を踏まえたうえで、問題文に「**開発費用 ¥ 1,500,000 の中には、使用開始後にかかるシステム関係の保守費用 ¥ 200,000 が含まれている**」とあるので、ソフトウェア仮勘定 1,500,000 円のうちの 200,000 円は**前払費用**に振り替え、残りの 1,300,000 円は**ソフトウェア**に振り替えます。

保守費用 200,000 円の勘定科目をどれにするか悩んだ方も多かったと思いますが、前払費用の他に適当な勘定科目がないため、消去法で前払費用を選択しましょう。

★解答・ソフトウェアの使用開始時の仕訳

（借）前払費用 200,000 / （貸）ソフトウェア仮勘定 1,500,000

（借）ソフトウェア 1,300,000

ソフトウェアに関する問題は、第144回の問1でも出題されているのであわせてご確認ください。